

Ibaraki Association of Architects & Building Engineers

# けんちく茨城

No. 92 October, 2016

【特集】

平成28年度

第26回 全国女性建築士連絡協議会「奈良大会」報告

未来へつなぐ居住環境づくり

“日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見”

【建築作品紹介】

茨城県立土浦第三高等学校「特別教室棟」



一般社団法人  
茨城県建築士会



目次

[特集]	平成28年度 第26回 全国女性建築士連絡協議会「奈良大会」報告 未来へつなぐ居住環境づくり “日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見”	1
[報告]	茨城県建築士事務所協会・茨城県建築士会合同開催 大納涼会	7
[建築作品介绍]	茨城県立土浦第三高等学校「特別教室棟」	8
[シリーズ]	ようこそフレッシュマン！ 内野 啓太さん、加藤 英司さん、志賀 大祐さん 田口 淳美さん、山西 さおりさん	10
[シリーズ]	先輩会員を訪ねて 小貫 廣利氏、梅原 郁夫氏	12
[会員委員会報告]	第26回チャリティーゴルフ大会開催 急遽「特別賞」も加わり、パーティーは例年以上に大盛り上がり！	13
[まちづくり委員会報告]	常総支部・行政と継続して取り組む「常総市災害復興事業」や 「常陸国のむかしの家」第6弾の準備など、今年度も事業が目白押し	14
[会員委員会報告]	第9回ボウリング大会開催！ 今年は筑波支部が優勝！	16
[青年委員会報告]	今年は県央Pチームが優勝！ 第40回ソフトボール大会 大盛況だった学生との「パスタブリッジコンテスト」 関ブロ青年協議会では、自然豊かな清里で「建築合宿」！	17 18
[女性委員会報告]	ラブアーク 「電力小売の自由化」がよくわかるタイムリーなセミナー セミナー スギの厚板で屋根・壁を構成「板倉構法」の現場で学ぶ 「断熱材&省エネについて」 発砲系と繊維系—2種類のエコ&省エネな断熱材を学ぶ わくわく 「エコフロンティアかさま」 セミナー 震災や水害の廃棄物も眠る「廃棄物最終処理施設」で思う 「今どきのトイレ」トイレから「暮らしやすい！」を	19 20 21
[日立支部報告]	「堅固な防災拠点」かつ「誰もが利用しやすい、人にやさしい庁舎」 平成29年に完成予定の「日立市新庁舎」の現場を見学	22

会報 **けんちく茨城**

題字 橋本 昌 茨城県知事

2016年10月 第92号

表紙写真 茨城県立土浦第三高等学校  
「特別教室棟」

発行 平成28年10月7日(年3回発行)

次回発行 平成29年2月7日予定

設計 柴・根本建築関連業務共同企業体

発行部数 2,400部

所在地 土浦市

発行所 一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸

建築面積 特別教室棟 1,684.28㎡

〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F

重層渡り廊下 46.43㎡

TEL.029-305-0329 FAX.029-305-0330

延床面積 特別教室棟 3,916.67㎡

Eメール kyy05413@nifty.com

重層渡り廊下 46.43㎡

編集 情報・広報委員会

主体構造 RC構造 地上3階

デザイン 有限会社平井情報デザイン室

撮影 アートフォトTANII: 谷井修二

印刷所 株式会社あけぼの印刷社



## 特集

平成28年度  
第26回  
全国女性建築士連絡協議会  
「奈良大会」報告

### [大会テーマ]

# 未来へつなぐ居住環境づくり “日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見”

7月22日・23日の2日間、古都・奈良に日本全国47の建築士会から約350名の女性建築士が集まり、大会テーマのもと、「日本の暮らし」についての活発な意見交換や日ごろの活動成果の発表を行いました。2日間にわたって繰り広げられた熱い大会の様を、茨城の女性建築士たちによる全力レポートでお届けします。



2日間に渡って開催された第26回全国女性建築士連絡協議会「奈良大会」。茨城県建築士会からは全11名が参加しました。初日には、「基調講演」と「パネルディスカッション」、そして「被災地の現状報告」が行われました。「被災地の現状報告」では、5年が経過した「東日本大震災」の被災地東北3県の復興状況、発生から3ヶ月の「熊本地震」の実状が報告され、さらに私たち茨城のメンバーも「平成27年9月関東・東北豪雨」の現状報告を行いました。



2日目は「分科会」が行われ、「防災」「景観まちづくり」「子どもと住環境」などテーマの異なる8つの分科会で活発な意見交換が行われました。その後「全体会」が、奈良春日野国際フォーラム 薨の豪華な能楽ホールで開催され、各分科会の報告や総評が発表されました。



そして、午後はお楽しみエクスカースション。「大人の修学旅行」と題された8コースが用意され、奈良開催ならではの充実した視察を楽しむことができました。

### 大人の修学旅行



全国の女性建築士の活動状況をつぶさに知ることができる本大会は、毎回刺激に満ちていて、新たな活動へのヒントを得ることができる有意義な交流の場です。今後もたくさんのメンバーと参加を続け、女性委員会の活動に役立てていきたいと思えます。

(女性委員会委員長 平沼清美)



## 〔基調講演 | パネルディスカッション〕

日本ならではの住空間「和室」を題材に、  
日本の暮らしの「歴史」から「未来」までを多様な観点から議論

第26回 全国女性建築士連絡協議会  
「奈良大会」

大会テーマ

未来へつなぐ居住環境づくり  
“日本の暮らし  
豊かな生活文化の再発見”

### 1日目

【開会式】 13:00→13:20

【基調講演】 13:20→14:20

テーマ

「日本の暮らし  
豊かな生活文化の再発見」  
講師：渡辺 光雄（岐阜大学名誉教授）

【パネルディスカッション】

14:25→15:55

テーマ

「日本の暮らし  
豊かな生活文化の再発見」  
コーディネーター：永井 香織  
（日本建築士会連合会女性委員長）  
パネリスト：  
渡辺 光雄  
（岐阜大学名誉教授）  
湯川 直紀  
（ライフケア創合研究所代表取締役・理学療法士）  
白田 ゆかり  
（奈良女子大学大学院生）  
岡田 伸子  
（岡田建築設計事務所・奈良県建築士会）

【被災地の現状報告】

16:05→17:25

- 岩手県「岩手県における東北地方太平洋沖地震被害の現状報告」
- 宮城県『「記憶の中の住まい」プロジェクト」
- 福島県「ふくしまの現状」
- 茨城県『「平成27年9月関東・東北豪雨」の現況報告～川とともに暮らす～」
- 熊本県「熊本地震発生～100日 現状についての報告」

【交流会】 18:30→20:00

会場：ホテル日航奈良



基調講演

「古い技術」とともに  
「新しい手法」の準備も。  
建築家のこれからの意識を  
提言した基調講演

基調講演では、「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」と題し、岐阜大学名誉教授の渡辺光雄氏が講演しました。著書のタイトルにもなっている「窓を開けなくなった日本人」というキーワードが印象的でした。和室建築から継承すべきものという内容から、住環境が激変している今、進化が求められる時代であり、日本の専売特許である和室の美しさや伝統技術とともに新しい手法を準備しておくこと、そして、一人ひとりが建築家として、次の時代の「暮らし方の提案」を意識していることが大切、という提言が投げかけられました。（浜中本子）

女子大生へのアンケートの  
結果もふまえ、「和室」の  
存在意義を徹底討論した  
パネルディスカッション

その後、パネルディスカッションでは、大会に先立ち行われた和の暮らしについてのアンケート報告を中心に、特に、和室と畳の関係について機能や必要性などの議論がなされました。日本の住空間「和室」は無くなるのか、残っていくのかという議論はとても興味深かったです。（浜中本子）

「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」をテーマに掲げた「パネルディスカッション」では、パネリストに現役の奈良女子大学院生が参加していて、若い世代の和室に対する貴重な意見を聞くことができ、和室のあり方や住まい方などを深く考えると良いきっかけになりました。（四ッ谷明美）

### パネルディスカッション





# 【被災地の現状報告】

平成28年度 第26回全国女性建築士連絡協議会  
「未来へつなぐ居住環境づくり」～日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見～



## 記憶を風化させない—岩手、宮城、福島、熊本の女性建築士たちと並び、茨城も「常総市の豪雨による被害と復興に向けた現状」を報告

鬼怒川とともに生きてきた  
常総のまちの歴史を  
あらためて学ぶよい機会に

「被災地の現状報告」では、岩手、宮城、福島、熊本の女性建築士の皆さんと並んで、本県も昨年に起きた豪雨の報告をしました。

その準備の時間は、私にとって改めて鬼怒川の歴史や水害史について学ぶよい機会となりました。江戸時代、東北から江戸に物資を運ぶための大事な輸送ルートとして舟運の栄えた鬼怒川、新田開発や舟運路の確保のために行われた大治水工事など、川とともに暮らしてきた常総市のまちの歴史を学び、今回の災害の現状報告をすることができました。

全建女で継続してきている震災・復興状況報告では、被災地から離れた地域の方々や、災害に無縁であった人々にも記憶を風化させないこと、防災について考えるという大きな役割がありました。

今回の熊本の地震では、被災地の女性建築士たちとの連携やつながりなどが大きな支えになったという報告もあり、このような大会を通じて情報交流を行うことの大切さを実感しました。(平沼清美)

常総支部・まちづくり委員会  
への取材も行い、  
復興支援の現状も詳細に報告

茨城県の報告は、平沼委員長を中心に、金子さんと私・浜中が現地視察や常総支部・まちづくり委員会の合同会議に出席するなどして内容をまとめ、小貫さんがスライドをまとめました。大会当日は、奈良女子大学講堂に350余名の聴衆が集まるなか、平沼委員長がステージに立ち、発表を行いました。利根川東遷の歴史から水害被害の状況やその後の被災者支援の現状、そして、現在、常総支部がまちづくり委員会とともに取り組んでいる「被災建物の相談支援システム」の構築、「災害に備えたまち・家づくりの提案」をまとめている様子まで、内容の濃い発表になったと思います。資料をまとめるに当たり、常総支部の方々・まちづくり委員会の方々には快く取材をお受けいただきありがとうございました。(浜中本子)

### 大変な状況のなか各県で奮闘する建築士の姿に感動

初めての参加でどのような大会かわからずに参加したのですが、充実し



発表を行う平沼委員長



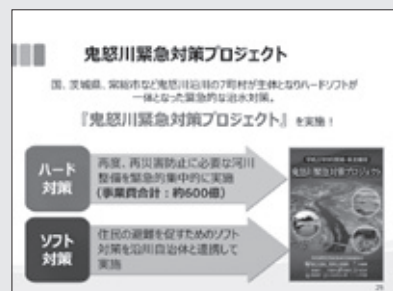
市の歴史もふまえ「川とともに暮らす」の題に



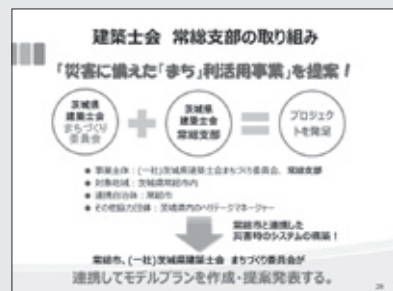
江戸時代に行われた東遷事業から解説



昨年9月の水害の状況を写真でリアルに



国・県・鬼怒川沿川7町村による対策の紹介



茨城県建築士会としての取り組みを説明

た内容におどきました。「被災地の現状報告」については、地道な被害状況の調査、復興への取り組み、そして建築士としての役割などについての発表がそれぞれの県から行われ、大変な状況のなかで頑張っている皆さんの意気込みと建築士としての矜持に感動しました。(渡辺美津子)

今大会には、常総市の水害報告があることもあって参加しました。発表

を行った平沼委員長を始め、資料作りに携わった方々、本当にお疲れさまでした。浸水の被害者でもある私には、東北地方太平洋地震、熊本地震の現状報告は身につまされるものがありました。また、それぞれの県から報告された、建築士としての復興に向けての活動も大変参考になりました。(松崎マサ子)

初めての参加でしたが、思っていた

以上に内容が濃く、とても興味をひかれました。「被災地の現状報告」は、皆さんが細かく調査された結果を聞くことができ、感動しました。「被災地の現状報告」の後は、茨城県の参加者全員で交流会に臨んで楽しい時間を過ごしました。この思い出の1ページは心の宝物となりますね。いろいろな方々との出会いに、心の扉が開く大会でした。(小林明江)

平成28年度  
第26回 全国女性建築士連絡協議会  
「奈良大会」報告

2日目午前

平成28年7月23日(土) 9:00～12:20 会場：奈良春日野国際フォーラム 薨

## 【分科会 | 全体会】

### 分科会では、「防災」「子ども」「高齢」「エネルギー」「環境」など暮らしに密着した8つのテーマを議論

## 2日目

【分科会】9:00→11:20

- A分科会「防災への取り組み」
- B分科会「エネルギーと暮らし」
- C分科会「歴史的建造物と建物再生」
- D分科会「環境共生住宅～住み継ぐ～」
- E分科会「景観まちづくり」
- F分科会「子どもと住環境」
- G分科会「高齢社会と福祉住宅」
- H分科会「二地域居住の提案」

【全体会】11:45→12:20

### HUG (避難所運営ゲーム)で防災の意識を高める

2日目の午前中には分科会が行われました。私が参加したA分科会は「防災への取り組み」がテーマ。コメンテーターを務めた神奈川県建築士会では、防災・減災を意識する大切さを建築士ならではの視点で伝えるため、避難所運営を皆で考え、避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかを疑似体験するシミュレーションゲーム (HUG) を県下各地で開



分科会

模型を組み立て、筋交いの意味や言葉そのものを知ってもらう取り組みについて発表があり、イベントへの参加の仕方や集客などについても活発に意見交換がされました。

ほかにも、長崎ではカステラを使って子供

催しているということ。他には「DIG」と言う、地図を用いて地域で大きな災害が発生する事態を想定し、危険が予測される地帯または事態を書き込んでいくものや、「YES」か「NO」を選ぶ「クロスロード」があります。「クロスロード」の問題には「3,000人いる避難所で、2,000食を確保した。この食糧を配るか配らないか」といったものが出されます。

地震の多い茨城県だからこそ、このようなゲームがいざという時に役に立つことがあるのではないかと思います。茨城の女性委員会でもぜひ提案したいと思いました。(金子雅代)

### 「紙ぶるる」「お菓子の建築」で子どもの興味を喚起する

「子どもと住環境」がテーマのF分科会では「紙ぶるる」を使って実際に

模型を組み立て、筋交いの意味や言葉そのものを知ってもらう取り組みについて発表があり、イベントへの参加の仕方や集客などについても活発に意見交換がされました。ほかにも、長崎ではカステラを使って子供たちが自分たちで町に必要な「建物」を考え、お菓子の街づくりをするという、とても興味深い取り組みが紹介されました。そこでは、最後に「お菓子の建築士」の称号を授与するという話を聞き、作って終わりではなく、建築への興味を継続して持ち続けてもらうための工夫が素晴らしいと感じました。(四ッ谷明美)

### 都会と田舎の二地域居住を推進する長野の取り組み

「二地域居住の提案」がテーマのH分科会では、長野県で行われている建築士会と行政及び建築産業に携わる各種団体による地域の発展のための取り組みについて発表がありました。あらためて広い視野で仕事をすることの重要性を感じ、大変刺激になりました。(渡辺美津子)



# 大人の修学旅行

2日目の午後は、お待ちかねのエクスカージョン。  
古都・奈良の古代建築から近代建築までを巡る、  
思わず胸が高鳴る小旅行となりました。  
参加者がそれぞれの想いを抱いて見学した  
伝統建築の数々を紹介します。



**JR奈良駅旧駅舎** (近代化産業遺産群)

昭和9年の建築で奈良駅舎としては2代目。駅舎としての役目を終え、奈良市総合観光案内所として平成21年7月にオープンし、再び活躍しています。多言語対応カウンターや外貨両替機、授乳室、各国からの観光客のために祈祷室もあります。スタバも入り活気のある案内所です！(石黒洋子)



**奈良女子大学**

大会の会場となった奈良女子大学には、国の重要文化財に指定されている棧瓦葺屋根の中央の塔屋が印象的なハーフティンバー様式の記念館(設計：山本治兵衛、旧本館 明治42年竣工)をはじめ、外観を和風とする昭和初期の木造近代建築として国の登録有形文化財となっている佐保会館(設計：岩崎平太郎)などがあります。特に、大学の正門前から見る正門・守衛室・記念館らの近代建築の姿が、まさに大学の顔となっています。近鉄奈良駅から徒歩6分程度で行けるので奈良にお出かけの際は是非立ち寄ってみてください。(浜中)



**唐招提寺** (世界遺産)

最後のエクスカージョン『大人の修学旅行』は、いちばん楽しみにしていたプログラムです！唐招提寺の金堂の平成大修理に携わられた松井さんの説明は、大変興味深いものでした。(渡辺)

歴史的な古代建築に加え、  
瀟洒な近代建築も多く残る古都・奈良を  
「建築女子」たちが颯爽と闊歩。



**慈光院**

参加者の足元への虫除けスプレーには、奈良の女性建築士の皆さんの細やかな心遣いを感じ、敬服しました!!(渡辺)



**奈良ホテル** (近代化産業遺産群)

明治42年創業の老舗ホテル。東京駅の設計で知られる、辰野金吾氏の建築です。今回はこちらに宿泊、美しい環境に日頃の忙しさを忘れくつろげました。(金子)



**菊水楼** (登録有形文化財)

明治23年に創業し和風迎賓館として、皇室関係、政財界、文化人に愛用されています。食事もせず、建築士であることを伝え、見学させて頂きました。建築女子の勉強熱心さに、支配人が説明をしてくださりラッキーでした。(平沼)



## 奈良国立博物館なら仏像館 (重要文化財)

明治27年に完成した煉瓦造りの建物。奈良で最初の本格的洋風建築。平成22年に「なら仏像館」と名称を変え、常時100体近くの仏像が展示されています。仏教美術の素晴らしさにふれることができました。(中崎妙子)



## 志賀直哉旧居

大会が始まる前の空き時間に志賀直哉旧居を見学しました。昭和初期に志賀直哉自身が設計。外観は数寄屋風造りで、内部は洋風の様式も取り入れ、見事に融合しています。美的な工夫、風通しや採光を考えた窓が的確に配され、特にサンルームの天窗からの光が気持ちよかったです。(浜中)

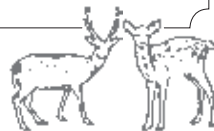


## 浮見堂

奈良公園・鷺池に浮かぶ檜皮葺き、八角堂形式(六角形)のお堂です。水面に映る姿が美しく、水辺の憩いの場となっています。(平沼)

## 大人の修学旅行

訪れる場所のすべてが、懐かしさと新鮮さに満ちていて、まさに「大人の修学旅行」の気分を満喫することができました。



## 春日大社

春日大社の祭神は、鹿島神宮から神鹿に乗ってやってきたと伝わるようで、茨城県とも深いつながりが。(平沼)

春日大社参拝～志賀直哉旧居～奈良市写真美術館(黒川紀章設計)～頭塔など、どこも初めての場所で、まさしく「修学旅行」気分を満喫しました。(松崎)



## 入江泰吉記念 奈良市写真美術館

約半世紀にわたり奈良の風景や仏像を撮り続けた故入江泰吉の記念館。全作品が奈良市に寄贈されたのを機に建築家・黒川紀章氏が設計したものです。(篠根玲子)



## 金閣寺 (京都)

全建女の楽しみは、充実した全体会&分科会もさることながら、参加者有志とのオプションツアーかもしれません。今回は京都へ数時間の旅。久しぶりに訪れた金閣寺はやはり圧巻でした。観光タクシードライバーの説明もよかったですね。(赤木裕子)



# 大納涼会

平成28年7月29日(金) 17:00～  
ホテル テラス ザ ガーデン 水戸



夏の恒例行事となった第11回大納涼会が、7月29日(金)、「ホテルテラスザガーデン水戸」において、茨城県建築士事務所協会との合同懇親会として開催された。

今回は来賓、会員、賛助会員、建築士事務所協会からの参加者を含めて、約240名の参加があった。

今回の幹事団体である茨城県建築士事務所協会横須賀会長の挨拶で始まり、続いて来賓の茨城県議会海野透議員、白田信夫議員、西野一議員、

伊沢勝徳議員よりそれぞれご挨拶をいただいた。

また、県の建築三課より建築指導課小沼課長、営繕課鈴木課長、住宅課海老沢課長にも来賓として出席をいただき、建築指導課小沼課長の乾杯により納涼の宴に入った。

今年も会場のあちらこちらで、来賓及び建築士会、事務所協会の会員、賛助会員の方々との有意義な交流が繰り広げられ、宴は盛況のうちに進み、建築士事務所協会賛助会の(株)山忠山崎代表幹事の中締めで、華やかな雰囲気うちに終了した。



県建築士事務所協会横須賀会長



県議会議員海野透氏



県議会議員白田信夫氏



「競争の時代、切磋琢磨して乗り切っていければと思います」



「今日は皆さんと楽しめます！ 料理もおいしくいただいています」

## 式次第

開会の言葉  
主催者あいさつ  
来賓あいさつ  
来賓紹介  
乾杯  
中締め



県議会議員西野一氏



県議会議員伊沢勝徳氏



「お互い健康第一でがんばりましょう」



「暑さがしのげる会場の雰囲気がいいですね」



「年度の後半に向け、エネルギーをチャージしました」

# 茨城県立土浦第三高等学校「特別教室棟」

霞ヶ浦を望む高台に新たなシンボルとして建つ、  
コンパクトながら躍動感にあふれる校舎



南側外観 撮影：アートフォトTANII：谷井修二

## 背景

県立土浦第三高等学校は、来年で創立70年を迎える伝統校であり、至誠・自律・協和を校訓としている。

旧特別教室棟は、建築後40年以上を経過し、耐震性の不足や機能的にも老朽化していることにより、建て替えを実施するものである。

建て替えに合わせ、現在別棟となっている図書館機能を新しい特別教室棟に組み込むこととした。

今回の特別教室棟に先立ち、平成24年度に管理・普通教室棟の改築工事を、I期工事として実施した。

現在、土浦第三高校においては、普通科のみではなく、商業科等、専門資格取得を目標とした科目にも重点を置いており、進路については、大学等への進学を目標としたきめ細かな教育を展開している。管理・普通教室棟を含め、今回の特別教室を改築するにあたっては、明るく、フ

レキシブルに活用できる学習環境を整えることで、生徒たちが、健康で快適な学校生活を送ることが出来る環境づくりを基本理念としている。

伝統校の建て替えにあたり、霞ヶ浦を望む高台に位置する恵まれた環境を最大限生かし、地域のシンボルとして未来へつなぐことを目指した校舎である。

## 特徴

狭隘な敷地において、十分なグラウンドを確保し、既存校舎の連携性や利便性を考慮し、中廊下型のコンパクトな平面計画とした。中廊下の採光に配慮して、分節ごとに大きな開口部を設けている。分節部分で既存管理・普通教室棟と接続する渡り廊下を設けることで、既存管理・普通教室棟との動線に配慮した。

各階を分節により、3つのブロックに分け、ブロック毎に関連教科を

まとめた教室配置としている。

講義、講演、映画など多目的な利用を考慮した階段教室として、1学年240名を収容できる視聴覚室を設けた。視聴覚室は、2階から3階にまたがる大空間とし、校舎東側に配置することで、雄大な霞ヶ浦を一望できる配置として計画している。

内外装の色彩とサイン計画について、筑波大学芸術系の山本准教授の協力のもと計画した。内装の色彩計画においては、特別教室棟で行われる教科や活動のイメージから、各室のテーマカラーを設定することをコンセプトとして、サインや教室壁のアクセントカラーに用いている。また、外壁の色彩計画においても、先に改築した管理・特別教室棟との調和を図りながら、周辺環境に配慮して彩度を抑えた校舎ごとのアクセントカラーを用いた計画としている。



# 茨城県立土浦第三高等学校「特別教室棟」

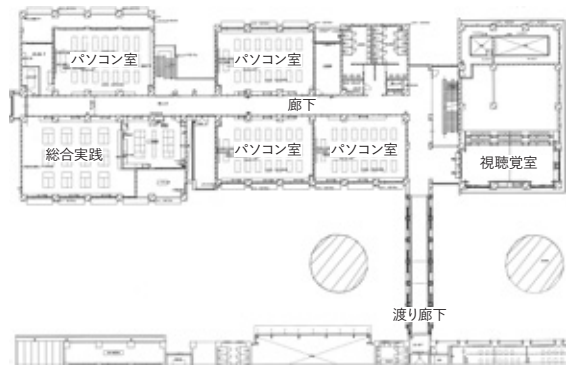
所在地 茨城県土浦市  
 設計 柴・根本建築関連業務共同企業体  
 建築面積 特別教室棟 1,684.28㎡  
 重層渡り廊下 46.43㎡  
 延床面積 特別教室棟 3,916.67㎡  
 重層渡り廊下 46.43㎡  
 主体構造 RC構造 地上3階  
 主要室 視聴覚室、図書室、パソコン室(4室)、美術室、  
 化学室、生物室、物理室、調理室、被服室、  
 総合実践室、音楽室、地学室、その他



1階



3階



2階



上：渡り廊下 下左：南西側外観 下右：北側外観



上：視聴覚室(多目的ホール)  
 中：生物室 下：廊下

# ようこそ フレッシュマン!!

*Welcome Freshmen!!*

建築士会に新たに入会した  
会員の方々を紹介するコーナー。  
今号では5名の皆さんに登場いただき、  
建築士会会員となつての  
抱負などについて伺いました。



**内野 啓太** さん

平成28年入会  
[ひたちなか支部]  
東海村役場都市整備課

会の活動に積極的に参加し、  
より多くの知識を身につけていきたい。

今年から会員となりました内野と申します。

ゼネコン、住宅メーカーでの現場監督の経験を経て、今年度から東海村役場の都市整備課に入庁しました。前職の経験からもさまざまなことを学んでき

ましたが、まだまだ未熟者です。

これから建築士会の活動に積極的に参加し、会員の皆様と交流を深め、より多くの知識を幅広く、深く身につけていきたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。



**加藤 英司** さん

平成28年入会  
[筑波支部]  
(株)けんちく工房 邑(ゆう)

中古住宅や建築基準法成立以前の建物に関する  
制度などについての情報交換に期待します。

このたび入会し、筑波支部の一員となりました。仕事では、つくば市を中心に住宅の設計・施工を行っています。中古住宅や古民家の改修等も手掛けているため、中古物件取得者へのインセンティブに寄与するインスペクションの

制度動向に関心があり、建築士会主催の講習会があると知り、入会しました。

今後は会員の皆さんとの交流を通じて、建築基準法成立以前の建物に関するさまざまな観点からのご教示や、意見・情報交換に期待しています。



みなさま  
どうぞよろしく  
お願いします!



**志賀 大祐** さん

平成28年入会  
[県央支部]  
菅原建設㈱

## さまざまな建築士の方々との交流を通じて、 長くお客さまに満足していただくための知識を得たい。

会社の勧めで入会しました。建築施工管理を担当として5年目になります。以前から講習会等には参加していましたが、正式な会員の立場となったことで、より積極的に活動に参加し、さまざまな建築士の方々との交流を通じて、

一層知識を深めていきたいと思っています。そこで得た知識を生かし、お客さまに10年、20年と長きに渡って満足していただけるような仕事ができるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



**田口 淳美** さん

平成28年入会  
[ひたちなか支部]  
東海村区画整理課

## 会の活動を通じて、建築業界の方々との つながりを広げるのが目標です。

職場の勧めで入会しました。まだ活動には参加できていませんが、今後、機会を見て参加していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

前職では、住宅メーカーで現場検査や施工管理を担当していました。今春

より土木の世界に飛び込み、今は初めて体験することばかりですが、これまでの経験を活かし、さらに新たな知識を吸収していきたいと思っています。

会の活動を通じて、建築業界の方々とのつながりを広げるのが目標です。



**山西 さおり** さん

平成28年入会  
[石岡支部]  
和田建築設計事務所

## 地域の方々との交流を深める活動や 講習会・研修に参加して成長していきたい。

今年の6月に入会しました。以前から建築士会の活動に興味があり、入会を希望していました。普段はなかなかできない、地域の方々との交流を深める活動や、講習会や研修などに積極的に参加できたらと思っています。

意匠設計の仕事に携わって20年ほど経ちますが、まだまだ未熟な部分があります。さまざまな方々との交流で気づきを見出し、新たなつながりを作りつつ、知識を深め、自分なりに成長をしていきたいと思っています。

士会会員として長きにわたり活躍されてきた先輩方を訪問し、お話を伺うコーナー。  
今回は、結城支部の小貫 廣利氏と、日立支部の梅原 郁夫氏を訪問し話を伺いました。  
聞き手＝情報・広報委員会



## 「常に既成の概念を破り、一步前に入る心がけが必要」

小貫 廣利 氏（結城支部）

昭和31年生まれ／昭和58年入会／会員歴33年

昭和31年生まれ。実家は結城市で建設業を営む。昭和58年に二級建築士を取得し建築士会に入会。昭和62年に一級建築士を取得して、現在まで建設業に従事する。建築士会では、平成4年から4年間に渡り支部青年部長、平成10年から8年ほど情報・広報委員会の委員を務める。今年から結城支部の支部長に就任。

——結城支部長としての抱負をお聞かせください。

まずは会員増強です。一人でも多くの会員を増やせるように力を尽くすつもりです。

——会の活動として印象に残ることは？

新潟で地震があった際、応急危険度判定活動を2度経験したこと、真夏に青年部でソフトボール県西大会や県大会に参加したことが思い出されます。

——後輩にメッセージをお願いします。

建築士会では、それぞれの会員が支部や協議会・本部の事業や企画に参加し、会員相互の交流を深め信頼しあうことで、自分の仕事に繋がるものを見い出せるのではないのでしょうか。目先の損得だけを判断して行動するのではなく、常に既成の概念を破り、一步前に入る心がけが必要だと思います。



## 「会の活動に積極的に関わり、自分の成長の一助に」

梅原 郁夫 氏（日立支部）

昭和33年生まれ／平成8年入会／会員歴20年

昭和59年に日本大学大学院理工学研究科前期課程海洋建築工学専攻を修了し、東急建設株式会社に現場技術員として就職。SRC造やRC造の現場に携わり、その後、実家の家業である木材業・建設業を継ぐため、平成2年に日立市に戻り、梅原材木店の3代目として今に至る。平成5年に一級建築士を取得し、平成8年、設計事務所開設と同時に建築士会に入会して当時の多賀支部のメンバーに。本年より日立支部の支部長に就任。

——日立支部長としての抱負をお聞かせください。

多賀支部との合併当時から10年間支部長を務め

尽力されてきた菊池先輩からバトンタッチされ、仲間たちからも応援を得て、支部長を務めさせていただくことになりました。会員の方々に支部活動をより理解していただき、企画にも積極的に参加できるような組織作りと、後輩建築士の皆さんに向けて、知識と経験の伝達ができるような活動をしていけたらと考えています。

——後輩にメッセージをお願いします。

この会には、設計、施工というようにいろいろな分野に携わる方々がいます。積極的に会の活動に関わることで、仲間を増やし、自分の成長の一助にしていただけたらと願っています。



## 第26回チャリティーゴルフ大会開催 急遽「特別賞」も加わり、パーティーは例年以上に大盛り上がり！

平成28年6月24日(金) 富士カントリー笠間倶楽部



左:個人の部優勝の白田氏。おめでとうございます! 右上:チャリティー金の贈呈 右下:白田氏提供の「特別賞」をかけて皆でじゃんけん!

**恒** 例行事の「チャリティーゴルフ大会」が、6月24日(金)、富士カントリー笠間倶楽部において、今年も盛大に開催されました。

当日は天候にも恵まれ、各支部から正会員・賛助会員合わせて115名が参加。31組が3コース(東・南・西)に分かれ、18ホールストロークプレー、ハンデ新ペリア方式で日ごろ鍛えた腕前を披露し、熱戦を繰り上げました。

プレー終了後は、倶楽部内2階レストランにおいて懇親会が開催さ

れました。柴会長の挨拶のあと、当日集められたチャリティー金20万円を、社会福祉法人緑会「児童養護施設みどり園・結いの家」に寄付しました。そして、参加者全員で乾杯した後、表彰式が行われました。

結果は、「個人の部」では当会顧問の白田信夫県議会議員が、「女子の部」では県央支部の市毛啓子氏が、「団体の部」では参加10チームの中から、賛助会チームが優勝に輝きました。その他、各個人賞やドラコン賞、ニアピン賞等も発表さ

れました。

今年は、優勝した白田議員より優勝商品をご提供をいただき、「特別賞」としてじゃんけん勝ち上がった方に商品が贈呈されることになり、パーティーは今まで以上の盛り上がりを見せました。

最後に、商品をご提供くださった各会員及び賛助会の皆さま、ご支援をいただき大変ありがとうございました。次回もお誘い合せの上、皆さまのご参加をお待ちしています。



個人の部		
優勝	白田 信夫 (顧問)	ネット 69.8
準優勝	小暮 真一 (石岡)	ネット 69.8
3位	内藤 初男 (県庁)	ネット 71.6
ベストグロ	小暮 真一 (石岡)	グロス 77.0

団体の部		
優勝	賛助会	グロス 358
準優勝	県央 A	グロス 368
3位	県庁 A	グロス 372
4位	土浦	グロス 376
5位	石岡	グロス 379

## 常総支部・行政と継続して取り組む「常総市災害復興事業」や「常陸国のむかしの家」第6弾の準備など、今年度も事業が目白押し



左・右上:今年1月と2月の小委員会では、常総市や常総支部の担当者と意見交換。右下:6月には鬼怒川を視察し、現地で復旧の進捗について説明を受ける

**平**成27年度後半から平成28年度にかけてのまちづくり委員会の各事業について報告します。

### 常総市災害復興事業について

27～28年度の2年にわたり「常総市災害復興」に携わり、連携事業を継続しています。

本年度は、昨年度より継続事業として実施している「災害に備えた『まち』利活用事業」の提案作成を進めています。今後の予定として、9月下旬に、常総市地域交流センター豊田城において、「報告会&発表会」を開催する計画です。

「水害に備えたまちづくり・家づくり」と題した、常総市歴史研究者石塚安一郎氏による講演会を皮切りに、昨年度より常総市と連携協議を繰り返しながら建築士会常総支部とまちづくり委員会が作成した被災時の相談・支援システムの提案と、水害に対応できる復旧しやすい建物の建て方と仕様の提案「常総モデル」の報告会を計画しています。

本事業は、まちづくり委員会と自治体が連携することにより、行政や市民に、建築士としての地位の向上、信頼を得るための、絶好のPR事業であると考えています。

当初は「歴史ある街中活性化事業」で着手しましたが、昨年9月の台風18号の大雨により多くの建物が被害を受け、現在に至ってもまだ修復されず自分の家に帰れない市

民が多数いることから、事業内容を変更しました。

被災後何度となく行政と綿密な協議を繰り返し、最終的に常総市民のために役に立てるような事業をということで、災害復興に携わる内容に変更しました。本事業を進めていくなかで行政と連携する機会が与えられ、「まちづくり委員会・常総支部・行政」が三位一体となり、



「平27年度全国まちづくり委員長会議」で活動報告を行う永井委員



意見交換をしながら互いに切磋琢磨し提案を作成することで、今まで以上に支部が活性化する効果が得られています。

## 全国まちづくり委員長会議について

平成28年2月19日(金)・20日(土)に、第24回まちづくり委員長会議が東京都の笹川記念会館4階(飛龍の間)において開催されました。本県からは永井委員が、全国まちづくり活動事例報告として、土浦支部活動による旧水戸街道(中城)・土浦宿のポケットパーク整備事業を報告しました。

今回の会議内容は、「全国まちづくり活動(自治体との連携)事例報告」と題して、発表事例を絞り込まず、誰でも発表できる斬新なシステムとなっていて、全国から15もの事例の発表がありました。地域によっ

て異なるまちづくり活動を聞くことができ、大変参考になりました。

## 「体感ルート・ガイドマップ・常陸国のむかしの家」第6弾発刊準備

平成27年度、まちづくり委員会がメイン事業として実施している「体感ルート・ガイドマップ常陸国のむかしの家」の第5弾を発刊しました。毎回、見やすい、使いやすい、詳しい、そして皆さまに愛されるマップを目標に制作に取り組んでいます。ご意見等があればぜひお聞かせください。今後の糧にしたいと思っています。

そして、本年度は「第6弾」として県南・県西方面を取り上げる予定ですが、諸事情により、資料収集をしてから発刊の準備をすることになっています。お近くに魅力ある歴史的建造物があれば、まちづくり委

員会まで情報提供をお願いします。

## まちづくり委員会が目指す方向性

まちづくり委員会は、本年度も自治体との連携事業に取り組んでいきたいと考えています。建築士会会員の減少が目立つなか、まちづくり委員会が自治体と建築士会支部の仲介役となり、今まで数多く実践してきたまちづくり活動を提供・提案することにより、建築士会支部と地元自治体との関係強化を図り、今後の業務活動を最大限活性化させ、魅力ある建築士会支部づくりをサポートすることを目的としています。

今後は全国各地で実施されているまちづくり事業を積極的に視察して、良い企画があれば今後のまちづくり委員会の活動の参考にしていきたいと考えています。



「水海道活性化事業調査」として水海道に残る歴史的建造物を調査。「常陸国のむかしの家」第6弾発刊に向けての資料収集も兼ねる

## 第9回ボウリング大会開催！ 今年は筑波支部が優勝！

平成28年8月27日(土) 水戸市グリーンボウル

**第**9回ボウリング大会には、各支部から会員、賛助会員合わせて65名が参加しました。

個人戦では、2ゲームを投げトータルスコア367で、萩谷孝一氏(県央支部)が優勝しました。また、団体戦では合計スコア1165を記録した筑波支部チームが見事優勝しました。

プレイ終了後は表彰式が行われました。参加していただいた皆さん、ありがとうございました！



個人の部優勝の萩谷氏(中央)と団体の部優勝の筑波支部の皆さん

個人の部	スコアは2ゲーム合計	
優勝	萩谷 孝一(県央)	367
準優勝	阿部 義博(県央)	345
3位	中山 康弘(筑波)	338
4位	小松 賢史(筑波)	335
5位	郡司 一男(桜川)	324

団体の部	スコアはチーム合計	
優勝	筑波支部	1165
準優勝	桜川支部A	1076
3位	県央支部	1048

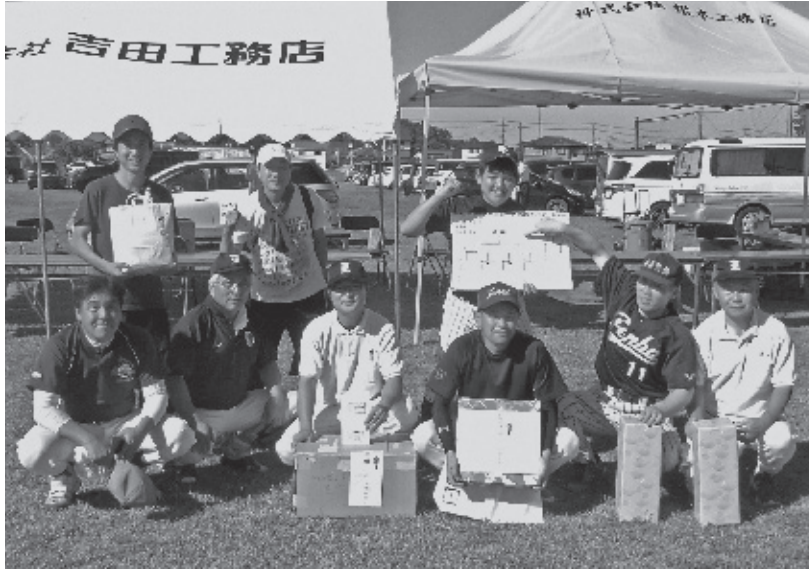


会員同士の親睦を深める貴重な一日となりました



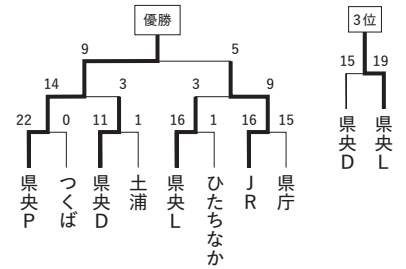
# 今年は県央Pチームが優勝！ 第40回ソフトボール大会

平成28年9月3日(土) 水戸市東野市民運動場



優勝した県央支部Pチームの皆さん。充足感に満ちたいい笑顔！

平成28年9月3日(土)、水戸市東野市民運動場にて、第40回ソフトボール大会(県大会)が開催されました。今大会優勝に輝いたのは、総合力と運も味方した県央支部Pチーム。Pチームの皆さん、おめでとうございます！お忙しいところ各支部から参加していただいた皆さん、本当にありがとうございました。



## 大盛況だった学生との「パスタブリッジコンテスト」 関ブロ青年協議会では、自然豊かな清里で「建築合宿」!

**県** 央支部青年女性部では、今回茨城県内の建築を学ぶ学生を対象に、建築の楽しさ、可能性を感じてもらいつつ、建築士の認知度を高め、建築士会の活動を広く社会に伝える事業を企画しました。

平成28年4月24日に文化デザイナー学院のギャラリーをお借りして、「パスタブリッジコンテスト」を開催しました。パスタブリッジコンテスト

とは、太さ1.8mmのパスタとグルーガンで30cmの橋を作り、重りを掛け、橋の比強度(耐荷重/ブリッジ重量)を競うものです。当日は県内の大学生、専門学校生ら約40名の参加があり、大変盛り上がりました。

パスタブリッジが重りに耐えきれずに破壊する際には学生たちから歓声があがり、破壊される様子から、構造的な弱点を学んでもらうこ

とができました。アンケートの結果からも、多くの好意的な感想を得ることができました。新聞社の取材もあり、複数の新聞に記事が掲載され、活動を広く伝えることができたと思います。県央支部青年女性部の多くのメンバーにより、初めての試みにもかかわらず、イベントは大成功、メンバーとの交流、結束を深める機会にもなったと思います。



パスタを使った橋「パスタブリッジ」を作り、強度を競う



参加した大学生・専門学校生たちと記念撮影

**平** 成28年6月17日・18日、山梨県清里の「清里寮」にて、「平成28年度関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会山梨大会」が開催されました。大会テーマは「建築合宿」。全体会議、分科会、懇親会の後はキャンプファイヤー、夜はコテージに宿泊して、ハケ

岳、富士山を望む自然豊かな清里の地で、建築合宿を堪能してきました。

茨城会の発表としては、上記の「パスタブリッジコンテスト」を含めた県央支部青年女性部の活動報告を行いました。7分という短い時間でしたが、活動に込めた思いや苦勞、成果等を参加者に伝えられたのではな

いかと思います。発表後のテーブルディスカッションでは他県の方と交流を図ることができ、さまざまな意見や思いを語り合うことができました。入賞は逃す結果となりましたが、事業をコンセプトから見直し、新たな事業へとつなげる有意義な機会となり、今後の活動の励みになりました。



「平成28年度関ブロ大会山梨大会」の様子。「建築合宿」のテーマを体現するキャンプファイヤーなどの趣向もこらされた





## ラブアークセミナー

### 「電力小売の自由化」がよくわかるタイムリーなセミナー



セミナー風景。右は講師を務めた関影商事ビジネスソリューション部の鈴木氏

6月30日に茨城県総合福祉会館において「電力小売の完全自由化セミナー」が開催されました。2016年4月から始まった「電力小売全面自由化」。気になっていたけど、詳しくは知らない電力について、「電力って何だろう？」から実際の「電気

料金の仕組みについて」まで詳しく説明していただきました。自由化前は住んでいる場所によって自動的に決められていた電力会社も、2000年3月に特別高圧の大規模工場などが自由化、今年の4からは低圧である一般家庭でも自由化が始まりました。

自由化前は40年以上前に決められた3段階の料金設定で、電気をたくさん使う人ほど高額だったなんて…。自由化された現在は、大小合わせて300以上の会社から生活スタイル、使用電気量に合わせて自由に電力会社を選べるようになったそうです。

セミナーでは実際の電気料金表を基に、東京電力および選んだ電気会社の試算比較を体験でき、年間の電気代がずいぶんと変わる方もいて、とても参考になりました。ちなみに電化上手（オール電化）の方々は今状のままが良いそうです。

今後のお客様への提案にも、とても参考になるセミナーでした。



## ラブアークセミナー

### スギの厚板で屋根・壁を構成 「板倉構法」の現場で学ぶ

平成28年7月28日、水戸市堀町に建築中の「板倉の家」の建て方見学に参加してきました。今回見学した建物は「板倉構法」という伝統的な木造建築工法で、筑波大学名誉教授の安藤邦廣先生主宰の里山建築研究所が設計・監理をする一戸建ての住宅です。

4寸角の柱と1寸厚の板で基本構造をつくり、柱の間隔は3尺が基本で、一般的にスギの厚板で屋根・壁を構成していくとのことでした。柱の間に溝を掘り、スギの厚板を落とし込んで壁をつくっていました。断熱材は使わず壁塗りも行わないた



伝統的な木造建築工法「板倉構法」で建築中の住宅を見学

め、シックハウスの心配もありません。スギ材を多く使用することでスギの人工林も活用でき、厚板一枚なので建設費のコストダウンにもつながります。外壁も内壁も厚板一枚…施工方法によっては防火構造にもなるということがとても驚きました。

また、柱や梁に古材を使用し、継

手仕口は一つ一つ現場で加工し、何度も微調整を行いながら組み合わせていました。梁や柱・床・古材施工など、安藤先生の解説を受けながらの見学はとても分かりやすかったです。ふだんこのような伝統的な木造建築の現場を見学することはできないので、大変勉強になりました。



## わくわくセミナー「断熱材&省エネについて」 発砲系と繊維系—2種類のエコ&省エネな断熱材を学ぶ



熱心にメモを取りながら講義を聞く受講者の皆さん

**平**成28年7月20日(水)、土浦市乙戸の土浦市三中地区公民館にて、女性委員会主催のわくわくセミナー「断熱材&省エネについて」を開催しました。17名が参加しての勉強会となりました。

従来の断熱工法は繊維系を主流としていましたが、最近では発砲系断熱材の普及により、現場でも発砲プラスチック系断熱材をよく見かけるようになりました。そこで今回は、その2種類の断熱材について各メーカーのご担当者それぞれの特徴、利点、長所、短所を伺いました。

通常フロンガスを使用して発砲させることが多いウレタンフォームです

が、今回セミナーを行ってくださった(株)日本アクアの「アクアフォーム」は、水を使って現場で発砲させる工法で、これにより柱と柱の間や細かい部分にも隙間なく充填することができるそうです。また、環境や人への影響も考慮されており、フロンガスをまったく使用しない地球に優しい素材で、アレルギーの原因とされるホルムアルデヒドも発生しないそうです。暮らす人にも施工する人にも優しく、省エネ化が進む今後の住宅事情に一役買う素材だと思いました。セミナーでは実際に発砲するところを見せていただき、モコモコ膨れ上がる様子に皆さん興味津々でした。

もう一社のマグ・イズベール(株)には、繊維系断熱材のセミナーを行っていただき、実際の施工の様子や特徴などをプロジェクターを使って丁寧にご説明いただきました。細かい繊維の間に空気を閉じ込める従来型ですが、快適性、省エネ性、健康面などいろいろな分野で研究されていました。従来型ということは、すなわち、もっとも長く使われ続けている断熱材であり、そこには時が経っても変わらない性能や、コスト、長い実績と信頼でたくさんの需要があるのだと思いました。

私たちが快適な暮らしを営むために各メーカーの日々の努力があり、そのお陰で今の私たちの暮らしがあることをあらためて感じました。



講師のお一人、(株)日本アクアの徳道勝也氏





## わくわくセミナー「エコフロンティアかさま」 震災や水害の廃棄物も眠る「廃棄物最終処分施設」で思う



最終処分施設で、資源と環境に関する切迫した現状を痛感

**5**月25日(水)、「エコフロンティアかさま」にて、「わくわくセミナー」が開催されました。エコフロンティアかさまは、循環型社会の形成に向けた廃棄物の適正処理を推進し、廃棄物最終処分場の安定的な確保を図るために、平成17年8月に開設された施設です。

計画は平成5年から始まりましたが、開設までに約12年。現在の場

所を探し、近隣の住民の方々への説明会を何度も行った後、ようやく建設・運営に至り、今年で10年が経過したそうです。

茨城県内でひとつしかない施設で、現在すでに半分が埋まっています。5年前の東日本大震災の廃棄物も持ち込まれました。昨年9月の常総市で起きた河川氾濫による廃棄物も眠っています。私たちが日々の暮

らしのなかで予期できなかったことも、無言で受け入れているのです。

しかし、あと10年分の埋め立てしかできないとのこと。今から計画を進めて行かないと、間に合わない状況のようです。当初の施設計画では、20年で埋まることは想定していなかったと聞きました。

これから、私たちができることはなんでしょう。暮らしの中でリサイクルできるものをきちんと分別し、資源として分けること、そして廃棄されるものを最小限に抑え、「循環型社会」を作り上げることが必要と考えます。そのためには、まず家庭から、子供たちにもゴミに関わる環境教育が必要なのではないでしょうか。身近なゴミ問題から、資源と環境について考える機会をいただき、担当者に感謝申し上げます。



## わくわくセミナー「今どきのトイレ」 トイレから「暮らしやすい!」を

**平**成28年6月のわくわくセミナーは、講師にTOTO(株)東関東支社 木本孝一氏をお迎えし、土浦市三中地区公民館において行われました。まず前半では、最新の衛生設備機器についての紹介がありました。超節水タイプの大小便器をはじめ、メンテナンスが楽になる「きれい除菌水」や「ハイドロセラフロア」など、次々と便利で機能的な新製品が開発されていることを知

りました。

後半では、商業施設、交通機関、学校など、さまざまなトイレ空間の事例や、途上国支援、災害対応などのトイレに関する取り組みや活動の紹介がありました。まちづくり・



講師を務めたTOTO(株)東関東支社の木本氏と受講者の皆さん

観光事業の一環として工夫を凝らしたトイレ空間づくりを行う地方自治体や企業が増えているということです。今後さらに魅力あるトイレ空間を全国に増やしていくということで、足を運ぶのがとても楽しみです。

## 「堅固な防災拠点」かつ「誰もが利用しやすい、人にやさしい庁舎」 平成29年に完成予定の「日立市新庁舎」の現場を見学

平成28年7月27日(水)、日立商工会議所建設業部会、日立市建設業協会、茨城県建築士会日立支部の共同開催による現場見学会(第1期本体工事)が行われました。「日立市新庁舎」という大きな整備事業のため、とても関心が高く、百数名の参加者を迎えての大見学会となりました。集合場所は建設現場近くの日立市消防本部の会議室でしたが、時間前には既に参加者全員が集まるなど関心の高さが伺えました。

見学会の初めに、会議室で日立市の総務部長から「現庁舎の現状として、老朽化、耐震性能の未確保、庁舎の分散化、分庁化、狭あい化、バリアフリー化」などのさまざまな厳しい課題を抱えていたことが報告されましたが、なんとといっても2011年の東日本大震災により庁舎が被災し防災拠点としての機能が果たせなかったことが新庁舎建設への最大の趣旨だということでした。

引き続き設計業者と施工業者の担当者による説明を受けましたが、設計者のSANAA事務所の代表、妹島和世氏は日立市出身の建築家で、2011年JR日立駅橋上駅舎新築のデザイン監修をされ、世界的にも評価が高い設計事務所の代表で、地元にも馴染みの深い方です。

設計事務所の担当者から、会議室で、パワーポイントを使用して設計コンペを経て基本・実施設計をし

た設計の経過説明があり、新庁舎概要は、鉄骨造(一部RC造)地上7階・地下1階建ての執務棟、平屋部分の屋内広場、大屋根のある広場、多目的ホール棟、外周部にある駐車場などで形成され、「主な機能として防災拠点整備の充実、市民サービスの向上、市民が利用し



平成29年度中に供用開始予定で工事が進む日立市新庁舎

やすい庁舎、環境や省エネルギーの配慮、高い経済性等を満たす庁舎として設計している」というコンセプトでした。

現在建築中の第1期本体工事は平成29年度中には供用開始というスケジュールで進行しているという報告があり、早速、徒歩にて建設現場へ移動し、施工業者担当者の説明を聞きながら、まず7階へ上が

りました。鉄骨建方工事が完了し、次の工程へ進行中で、各階床スラブの工事中の所を見学させていただきました。

1階～地下へと移動しながら見学し、特に基礎は免震構造を取り入れた工法だと説明があり、災害に強いということが認識できて、防災拠点としての役割を十分果たすためには極めて重要だと確信できました。各階のレイアウトも幅広い年齢層の市民に分かりやすい案内機能となっていて、人にやさしい庁舎、利用しやすいユニバーサルデザインを導入した庁舎だということを、一人の日立市民としての視点からも感じてきました。

最後に外部の進行状況等の説明を受けながら、建設現場の見学スケジュールは終了となりました。

現在、工事の遅れは無く、順調に工程通り進行しているということでしたので、来年度の新庁舎の完成した姿をととても楽しみにしています。

工事完成時に再び見学会などがあれば、ぜひ参加し

たいと思いながら、建築に携わる立場からという一方で、一日立市民として、今後新庁舎を利用していきたくと思わせる、そんな見学会でした。

工事中でお忙しい中、ご説明いただきましたSANAA事務所様、竹中・鈴縫・秋山・岡部特定建設工事共同企業体様の担当者の方々に深く感謝します。